

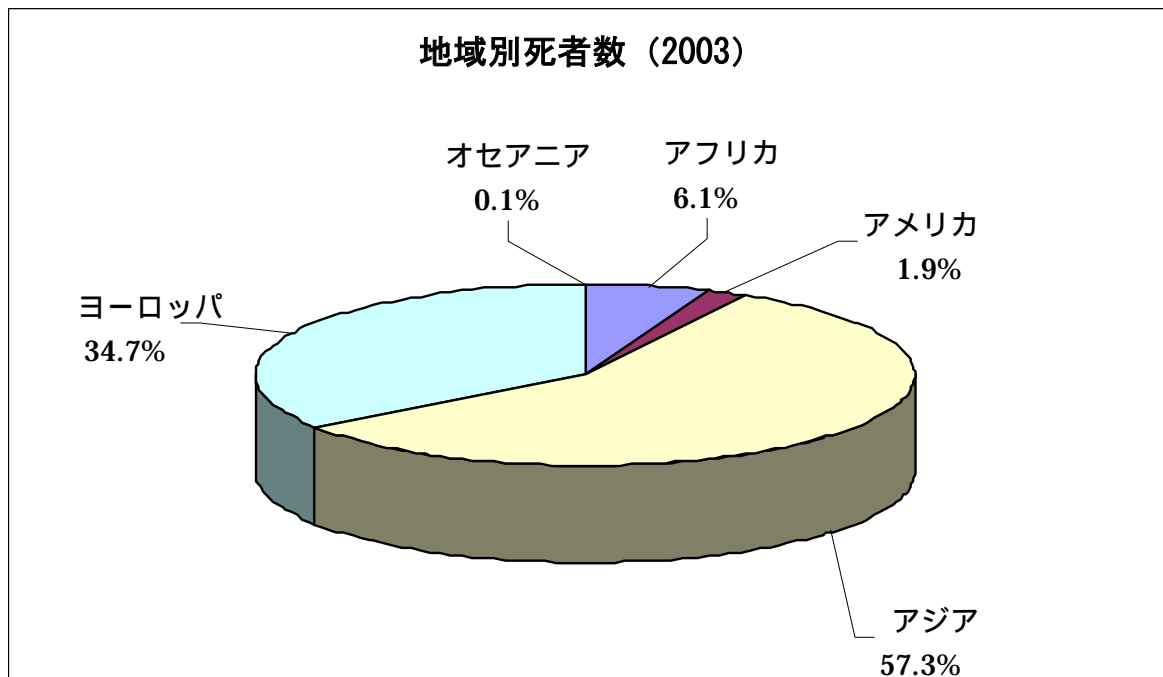
災害の種類	地域	災害数	死者数	被災者数	被害額 (1,000 米ドル)
林野火災	アメリカ	6	19	1,179	545,000
	アジア	1		300	
	ヨーロッパ	6	30	4,704	1,750,000
	オセアニア	1	4	2,650	300,000
合計		14	53	8,833	2,595,000
暴風	アフリカ	11	152	217,252	
	アメリカ	20	197	263,848	10,952,600
	アジア	28	602	10,265,606	6,012,406
	ヨーロッパ	6	22	107	2,949
	オセアニア	11	22	34,595	166,000
合計		76	995	10,781,408	17,133,955
総合計		380	86,862	253,635,421	43,672,375

出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）2003年

1.2 アジア地域の脆弱性

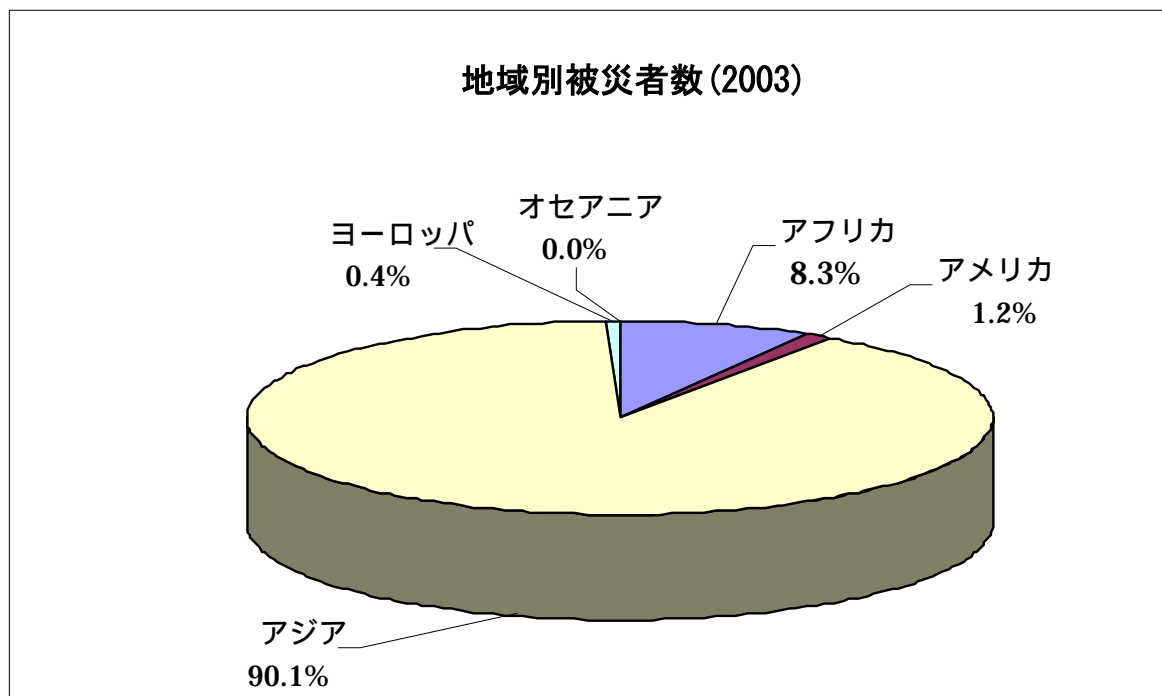
次に示すアジア地域に関する統計によると、この地域は自然災害に極めて脆弱であることがわかる。2003年における人的損失や被災者の大部分は、昨年と同様、この地域で報告されており、世界全体の被災者数の約90%、人的損失の57%を占めている。さらに、2003年の自然災害による経済損失では、アジア地域がその大部分を占め、以下アメリカ、ヨーロッパ、アフリカと続いている。これは、韓国を襲った台風マエミ、中国を襲った洪水、アメリカ合衆国を襲った暴風、イランを襲ったバム地震が原因となっている。しかし、2番目に多い死者数を占めるのはヨーロッパで、これは同地域を襲った異常気温と熱波により引き起こされた。

図 3



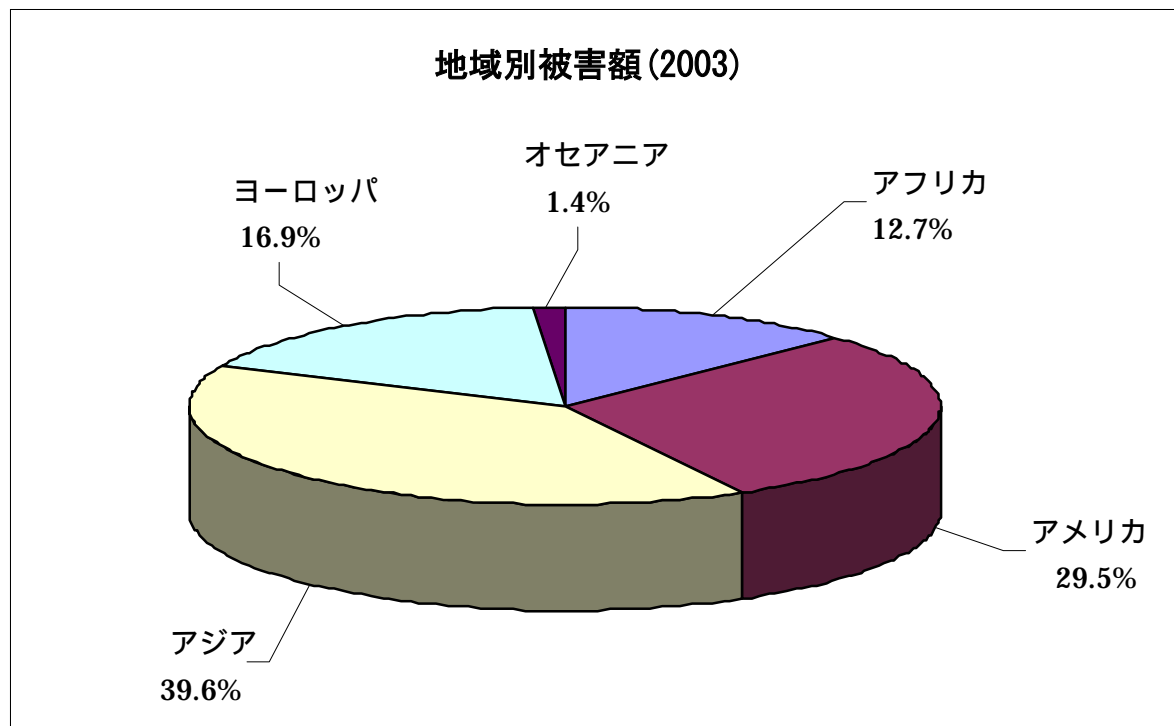
出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベントリック大学・ベルギー）、2003年

図 4



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベントリック大学・ベルギー）、2003年

図 5

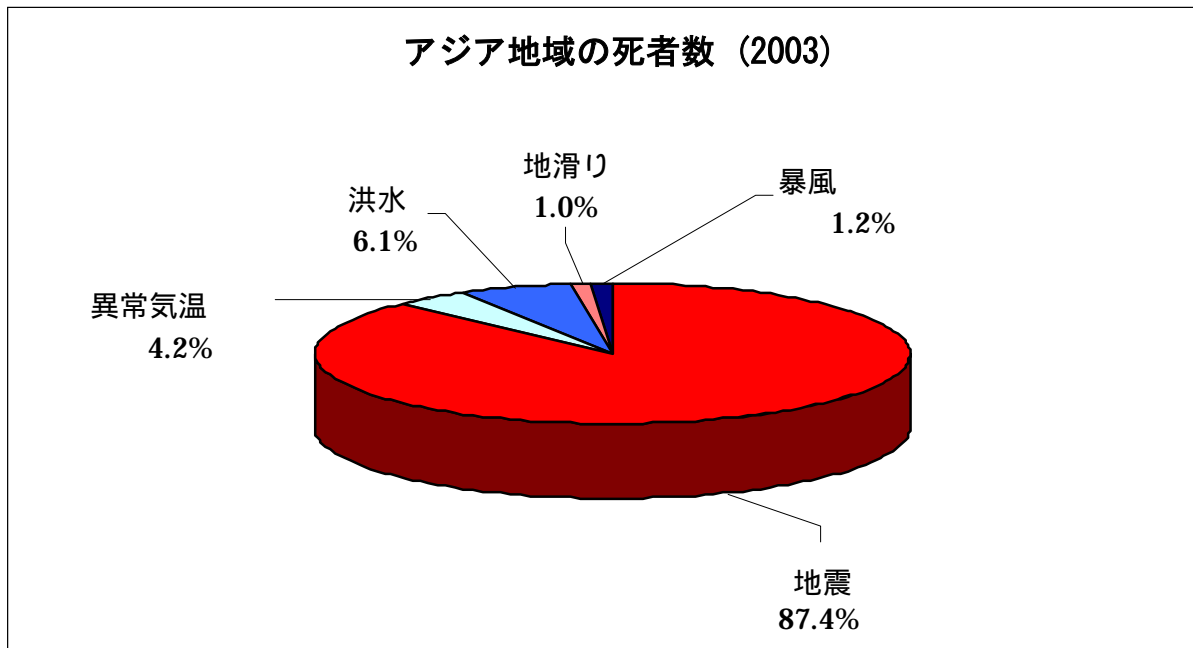


出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）、2003年

2003年の災害の種類や社会経済への影響に関するデータによれば、アジア地域は、干ばつ、洪水、暴風といった気象関連の災害による影響を大きく受けた。さらに、災害に関する過去の分析やアジア防災センター作成による「20世紀自然災害データブック」からも明らかのように、実際の経済被害額が少ないにもかかわらず、このように莫大な被災者数が発生するのは、アジア地域の社会経済的・文化的特徴が原因であると考えられる。次の章では、地域別に見た災害の特徴の傾向について、さらに詳しく考察する。いずれにしても、多大な人的被害がこの地域における開発活動の妨げになっているという事実は否めない。

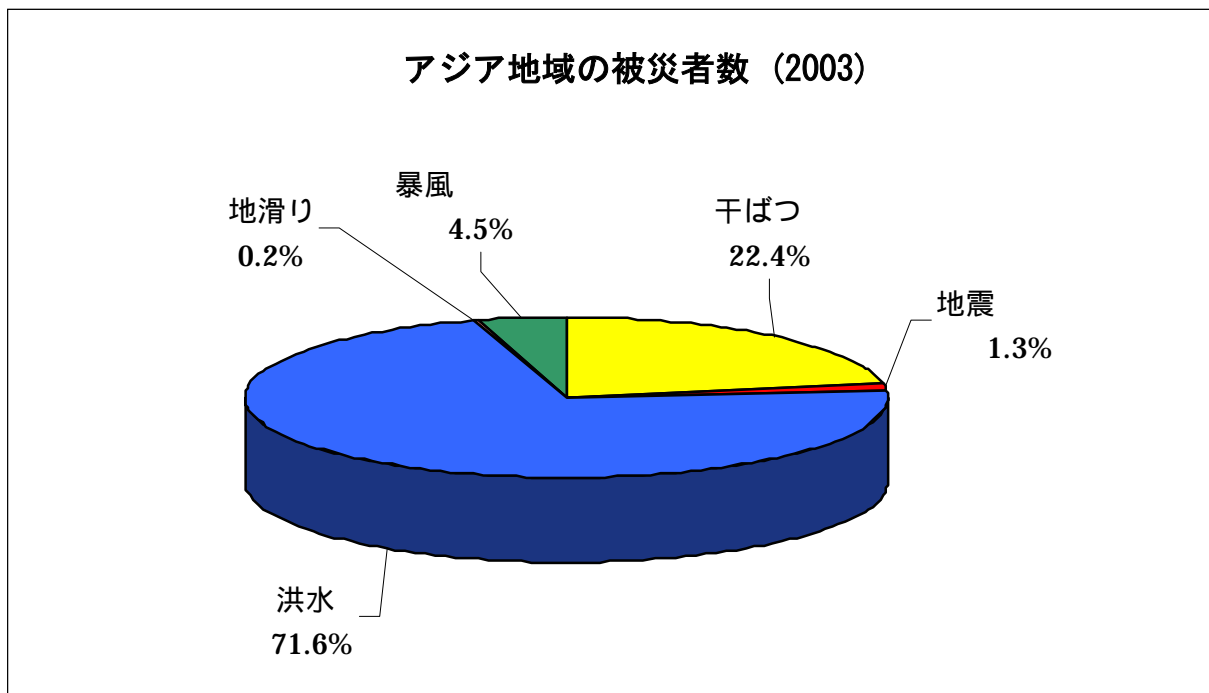
次の図は、この傾向を表したものである。

図 6



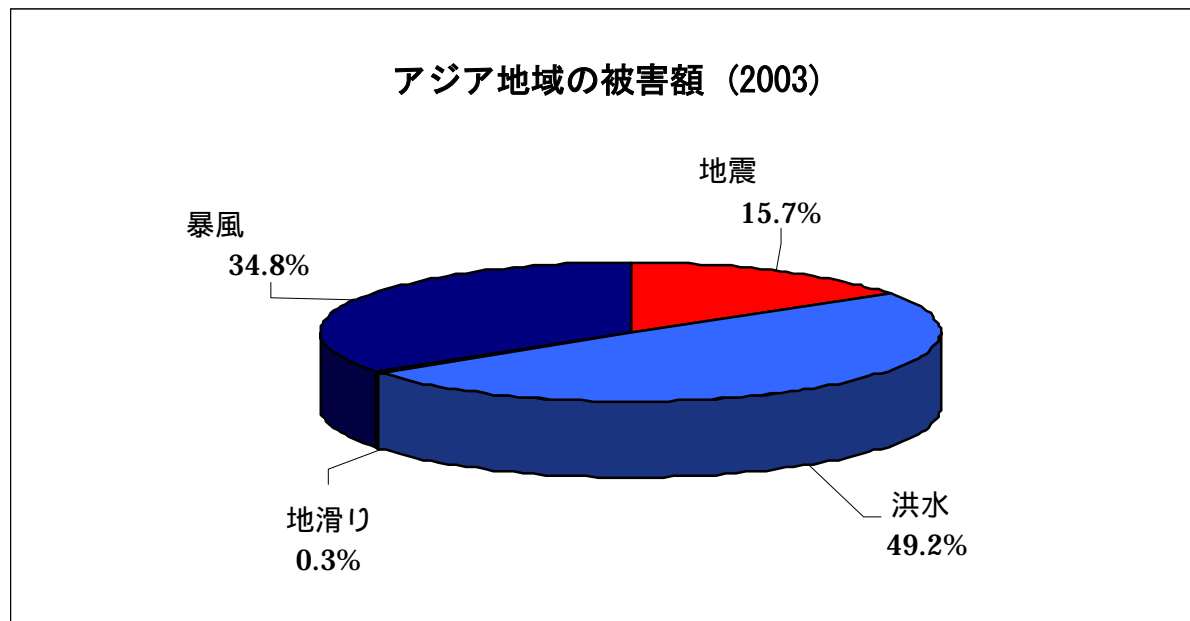
出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー） 2003 年

図 7



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー） 2003 年

図 8



出典：アジア防災センター、CREDE-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）2003年

1.3 開発途上国と小規模国の脆弱性

小規模経済もしくは小規模人口の国々は、災害の規模にかかわらず、影響を受けやすいのは明らかである。次の表は、そのような傾向を示したもので、個別の災害に対して死者数・被災者数・経済被害額別に順位を付けたものと、それらを当該国の総人口または国民総所得（GNI）²と比較して、順位付けを行ったものである。

次の表 4～9 によると、人的・経済的損失に関する絶対的被害は少ないが、各国の人口や GNI と比較したとき初めて、人々や経済に与える影響が大きいことがわかる。従って、この比較から、経済規模や人口規模の小さい国は、総人口や GNI に対して大きな損失を受けていることが明らかとなる。例えば、表 4 は、災害を死者数の多い順番に表にしたものである。また、表 5 は、各国の総人口と比較した死者数の割合の多い順に並べかえたものである。表

² 世界銀行 2002 年度資料の数値を参照